

NPO法人社会還元センターグループわ会報  
 情報ギャラリー  
 第37号

情報ギャラリー第37号  
 発行日 2007年 1月26日  
 編集 グループわ 広報部  
 発行者 郷 肥三  
 発行元 NPO法人社会還元センター  
 グループわ  
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830  
 Eメール group\_wa@wa-net.jp  
 ホームページ http://www.wa-net.jp

**ボランティア活動に会員82%が参加  
 会員対象のアンケート調査の中間報告**

理事・上田 市夫

さきごろ実施したグループわ会員のボランティア活動に関するアンケート調査については、全会員1,050名のうちの50.5%にあたる531名の方から回答を頂きました。皆様のご協力有難うございました。

この調査は、(財)神戸都市問題研究所が主宰する「ソーシャルキャピタル協働政策研究会」が、研究テーマの一環として、シニア世代が中心になってボランティア活動を通じて社会に貢献することを目的とするグループわに注目し、それを構成する会員の意識を把握するため行われたものです。

集計内容の分析は、今後同研究所とわが連携して行うことになっていますが、結果は、市の行政施策の中で、安心・安全な地域社会づくり、コミュニティーづくりなど人間関係を中心とする社会関係資本の整備のためのデータとして活かされることとなります。わとしても今後の運営方針の参考にしますが、とりあえずアンケートの集計に現れた特徴的な傾向の概要をお知らせします。

まず、わに入会した動機(3つ以内の回答)については、「シルバーカレッジ(以下「KSC」という。)で学んだことを活かしたいから」が60.5%、「KSCのボランティア活動を継続したいから」が44.3%、「社会のために役立ちたいから」が43.9%となっている。ボランティア活動については「している」が81.5%「していない」が15.4%となっていることがわかった。

一方、KSC入学前のボランティア活動については「していた」が30.1%「していなかった」が64.0%となっている。これらの回答から、KSCで学んだことなどで「していた」の30.1%が「している」81.5%

に増加し、逆に「していなかった」の64.0%が「していない」の15.4%に減少していることが分かる。これは「再び学んで他のために」を实践したKSC効果だと思われる。わに関係のないボランティア活動についても聞いたところ、47.8%が「している」で「していない」のは18.0%となっている。

ボランティア活動の頻度については、41.6%が「月1~2回」21.3%が「月3~4回」15.6%が「月5回以上」となっている。ボランティア活動

気懸かりである。ボランティア活動で満足を感じるの(複数回答可)「相手から感謝されたとき」が58.0%「充実感が得られたとき」が43.2%「役立ったと感じたとき」が28.4%となっている。

区会が行う地域活動への参加は、「している」「時々している」を合わせると45.0%となっている。

居住地の自治会・婦人会活動、清掃活動、趣味やサークル活動などの地域活動には「参加していない」が31.1%となっている。参加していない理由については、健康や年齢的なことなどいろいろ推測されるが、気になる数字である。

KSCでの履修コースについては、総合芸術コース29.6%、生活環境コース26.5%、福祉文化コース23.7%、国際交流・協力コース

グループわに入会した動機はなんですか(主なものをしてください)		
	件数	全体(%)
1. シルバーカレッジ(KSC)で学んだことを活かしたいから	321	60.5
2. KSCのボランティア活動を継続して行いたいから	235	44.3
3. 友人・同好のグループから入会を誘われたから	73	13.7
4. 社会のために役に立ちたいと思ったから	233	43.9
5. わのボランティア活動に共感したから	105	19.8
6. 技能・趣味を活かしたかったから	124	23.4
7. その他	29	5.5
無回答	9	1.7
合計	【複数回答】	1,129 212.6

への参加については、80.1%の人が交通費の実費ないし1日2,000円程度の有償を希望していることが注目される。このことは、ボランティア活動の頻度との関係で参加を左右する要素の一つになっていると考えられる。

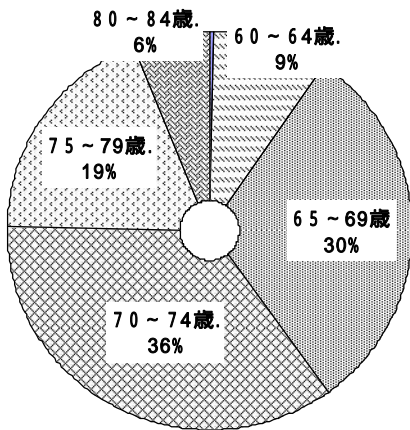
現在おこなっているボランティア活動の満足度については、63.7%が「満足」14.1%が「多少不満」と答えている。「大いに不満」が0.8%あるのは

18.7%となっている。総合芸術コースの比率が29.6%と高いのは、専攻が美工・音文・園芸・食分など趣味・いきがいに関する活動が関係しているのではないかと思われる。

最後に回答者の年齢について尋ねたところ、70~74歳が一番多く33.9%、ついで65~69歳が29.2%、75~79歳が17.9%、80歳以上がなんと5.8%もいます。(次頁に続く)

お知らせ  
 平成19年度 グループわ 定期総会  
 日時；5月15日(火) 場所；シルバーカレッジホール

### 回答者の年齢層調べ



(前頁から続く) 会員の年齢構成は、65歳以上が86.8%、65歳未満が9.1%（無回答4.1%）となっており、グループわの社会貢献意欲の旺盛な高齢者パワーは、頼もしい存在である。

ただ今回の調査で、会員の半数近くの方がアンケートに参加しただけでなかったのは、ボランティア目的で連携するわとしては意外であった。意識調査のサンプル数が全体の2分の1というのは、結果的にやや説得力に欠けるのではないかと懸念される。

以上アンケート調査の途中集計を概観し、取りあえずの中間報告とします。

なお、この調査結果を検討する「ソーシャルキャピタル 協働政策研究会」のメンバーは、市側から、市民参画推進局、保健福祉局、都市計画総局、消防局、区役所（東灘・長田・垂水）などでそれぞれ地域活力の向上・支援を担当する課長・主幹、民学産の分野から、北須磨団地自治会・六甲アイランドCITY自治会の各代表、神戸大学ヒューマン・コミュニティー創成研究センター伊藤教授、津田助教授、企業代表、NPO代表(わ)アドバイザーとして同志社大学社会学部の立木教授、柴内助教授、事務局((財)神戸都市問題研究所)など多彩な人材で構成されています。特に行政関係者は、それぞれがこのアンケートの分析の行方に「今後の施策のあり方」との関係で大きな関心を寄せています。このアンケートのデータは、各区ごとに動向を分析する必要があると思っておりますが、結果が纏まるまでにはかなりの時間がかかる見込みです。

## 2007年の年頭に想う

### 活力あるグループわを目指して徐々に前進

理事長 郷 肥三



グループわの会員の皆様並びにご家族の皆様におかれましては、新しい年をつつがなくお迎えのことと謹んでお喜び申し上げます。

日頃はグループわのために活動と共に運営にはご理解とご協力を賜り、役員を代表し深く感謝いたしております。

今年は神戸市シルバーカレッジ社会還元センターグループ“わ”が1997年7月22日に発足して10周年を迎える年であります。またNPO法人格を取得して3年目になり、神戸市役所はじめ各団体における認知度も徐々に盛り上がりつつあります。

このことはひとえに会員の皆様方一人ひとりの活躍が結晶したものであり、今後とも継続していくことが大切なことと考えておりますので会員各位のさらなるご協力をお願い申し上げます。

昨年5月 納前理事長からバトンを受けて“活力あるグループわ”を目指して運営してまいりましたが、このようなテーマは一朝一夕になるものではありません。しかし徐々にではありますが前進していると自負しております。

昨年の総会以降の主な行事等と今後の予定について述べてみます。

#### こうべ環境未来館

同未来館の管理運営の委託業務は環境局職員のご指導と会員担当者の協力を得て、継続して実施しており、本年3月で契約が完了します。今後は新たに公募に応募して引き続いて受託できるように努力する所存であります。

#### 神戸市子ども家庭センター

同センターから受託しております児童虐待夜間休日相談ダイヤルは2年目に入り、センター職員皆様のご指導と会員担当者の協力を得て継続して行っております。

#### ローグパレー平和合唱団

合唱団の歓迎交流会が昨年8月、神戸市シルバーカレッジホールで開催され、現役の国際交流・協力コースの

学生と国際部会並びに環境部会の会員の協力を得て行われました。

#### のじぎく兵庫国体並びに のじぎく兵庫大会

昨年10月、総合運動公園前のふれあい広場で開催され、わからも延べ約200名の方がボランティアに参加され、盛会裡に終了することができました。

#### シルバーカレッジ

##### 11期3年生への新規加入

グループわ及び同窓会の説明会が、一昨年からシルバーカレッジ事務局のご好意により行なわれており、昨年12月12日(火)に、3年生の授業の中で実施しました。本年2月に入会手続きをしていただく予定をしています。

因みに昨年の10期生の方は、12月末現在194名の方が入会しておられます。

#### 第2回各区対抗ふれあい グラウンドゴルフ大会

今後の予定ですが、4月10日(火)に開催する予定にしていますので、全区会から代表選手が参加していただき、大いに盛り上がり技を競っていただきたい。

#### 本年度の定期総会

5月15日(火)を予定していますので、会員の皆様におかれましては万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願いいたします。

終わりにあたり、人との関わり、すなわち心と心のつながりを求めて活動を広げて行きたいと考えております。会員の皆様をはじめご家族の方がこの一年間健康ですこやかに過ごされることをお祈りしています。



# 10周年記念事業実施計画決まる！

## 記念式典、アトラクション、地域交流など盛り沢山

### 理事 - 加藤 勇治

10年のあゆみを辿りながら一人でも多くの方にわの現状を理解いただき、今後の更なる飛躍を期す「全員参加型の記念事業」を目指しています。皆様の絶大なご支援とご協力をお願いします。

### 1. 記念イベント・

#### パフォーマンス

- (1) 実施時期 平成19年9月1日  
(土) 9:30~15:00
- (2) 会場 神戸市シルバーカレッジ  
カレッジホール(メイン会場)
- (3) 開催内容  
式典前アトラクション  
(9:30~)  
箏友会、KSC男声合唱団出演

#### 第1部 記念式典

- (10:00~10:40)
- 来賓、わ 歴代代表(委員長・理事長紹介)
  - 実行委員長挨拶
  - 来賓代表挨拶
  - ボランティア活動体験発表  
(環境未来館)
  - 標語入選者表彰
  - 記念演奏(テノール)
  - 神戸市シルバーカレッジ校歌斉唱

#### 第2部 パフォーマンス

- (10:50~12:30)
- わ 所属全ボランティアグループ(64グループ)紹介パレード(司会者の紹介に従い順次各グループがプラカードを掲げステージに登場)
  - コーロKSC, ハワイアンなど5組出演。

#### 昼食 (12:30~13:30)

- 事前予約制の弁当(お茶付)を準備し、ふれあいホールや食堂等で適宜昼食。(弁当引き換え券配布。わの会員は無料、非会員は有料。)

#### 第3部 KSC卒業生(在校生含む)相互交流会

- (13:30~15:00)
- 各教室を開放して、同期会、コース交流会など相互の交流・懇談会を実施する。(各教室の使用は事前予

約制とし、多数の時は抽選で決定)

### 2. 地域交流事業

- (1) 実施日時 平成19年9月2日  
(日) 10:00~15:00
- (2) 場所 しあわせの村 芝生広場
- (3) 実施内容
- しあわせの村本部(こうべ市民福祉振興協会)と共催で次のイベントを実施し、市民との交流を推進する。( ~ は2部制とする。)
  - 自然あそび(里山探検、ピオトープ探検、野鳥観察)
  - 昔あそび
  - 木工工作
  - ニュースポーツ(スカイクロス、ローンボール)
  - 車椅子体験

### 3. 展示パフォーマンス

- (1) 実施時期 平成19年9月1日  
(土)~14日(金)
- (2) 場所 神戸市シルバーカレッジ  
ふれあいホール
- (3) 展示内容
- わ10年の沿革史(写真、絵など)のパネル展示
  - わ各組織の活動実態パネル展示
  - 関与先施設入所者の作品展(絵、書、陶芸)

### 4. 10周年記念誌の

#### 編集と発行

- (1) 誌名 (仮称)「10年を顧みて」
- (2) 構成
- 巻頭 神戸市長 矢田 立郎氏  
KSC学長 今井 鎮雄氏  
こうべ市民福祉振興協会々長 新野 幸次郎氏  
神戸ワイン常務取締役(元KSC総務課長)渡辺 由和氏  
の4氏のメッセージ

回顧編 わ 歴代委員長・理事長(7名)の思い出、部会・地区会の活動記録など

展望編 関与先団体からの寄稿、会員縦断座談会など

年表・資料編

(3) 頁数・部数 A4版、カラー刷り  
約60頁、部数2000部、19年9月発行。

(4) 配布方法 来賓および当日来場の会員はその場で手渡し。それ以外は10月号の情報ぎやらりー郵送便に同封。

### 5. 標語の募集・

#### 入選作品表彰

- グループ わ の活動方針となる標語を広く会員から募集し、最優秀作品を今後のわの活動スロ-ガンとする。
- (1) 募集期間 平成19年2月~5月
- (2) 応募要領 別途連絡。
- (3) 表彰 最優秀作品(1点)、優秀作品(2点)を記念式典で表彰。

### 写真募集と提供のお願い

#### わ 10周年記念誌に掲載

グループ わ の創立10周年を記念して、本年9月に10周年記念誌を発刊します。つきましては表紙を飾る写真の募集と、創立当時から2,3年間の写真の提供をお願いします。

#### <表紙の写真>

グループ わ の記念誌の表紙にふさわしい写真を募集します。題材、テーマは問いません。応募多数の場合は審査のうえ決定します。

#### <年表に使う写真>

震災当時からの記録写真が不足しています。お手持ちの活動写真がありましたら提供願います。お送りいただいた写真は必ずお返しすると共に、提供者名を掲載します。

締切り 平成19年4月末

送り先 グループわ事務局気付

10周年記念誌部会宛

メールによる送付もOKです。

(group-wa@wa-net.jp)

## 子どもたちの学習支援活動

## 子どもたちと共に勉強、その喜び

理事 - 中沢 保夫

「日本の伝統文化を知ろう」「戦争と人々の暮らしは」今年も3つの小学校からの要請で“おじいちゃん、おばあちゃん先生”は大活躍でした。熱心に聞き入る児童たちの姿に、喜びと感動の連続でした。

## 長坂小学校(西区)

今回はじめて長坂小学校で12月6日(水)6年生176名を対象に、日本伝統文化講座を開きました。この日の講座は茶道、いけばな、三味線、詩吟、大正琴の5科目で、児童数が多いので10クラス、しかも2時限と3時限に分けて行ないました。

後校長先生も大変な熱の入れようで、各教室の授業風景を見てまわり「こんなに熱心に聴いている児童たちは初めて」と驚いておられました。大正琴で童謡を演奏したり、抹茶茶碗でお茶をたてたり、お花を生けたりと、すべてが初めての経験で興味津々でした。それぞれの講座の代表から感想をお聞きしました。

## 素晴らしい音感に驚き

## 国5 - 学 浅野 禮子

児童たちの旺盛な好奇心と、素晴らしい音感にびっくりです。5台の大正琴で五班に分かれ「赤とんぼ」「ふるさと」の2曲を練習、飲み込みの早さと音楽に対する感覚が非常に高い事にも感心しました。普段の授業もこんなに熱心してくれればと、担任の先生が仰っていました。

各グループ毎にお互いに助け合い、その成果を残し15分で全員参加の発表会をして、大喝采の中終了しました。帰り際に「大正琴を買いたい」「クリスマスプレゼントでほしい」などの感想を頂きとても嬉しかった。子どもたちの学習支援に2年も参加できた部員一同感謝しています。

## 育て・繋げよう日本文化

## 福11 - 学 小畑 章

今年は、昨年の実践経験から時間配分を工夫して、実際に発声する時間を多くとりました。6年生でも読みやすいように漢字にふり仮名をつけたり、易しい言葉で解説するなど工夫しました。今年は漢詩：朱熹作「偶成」を題材としましたが、小学校ではまだ漢

詩は習っておらず、俳句と短歌を履修しているとのことなので、今後は親しみやすい俳句を題材にしようと思っています。

今回の講座で児童たちが10年後か20年後に、詩吟に触れた時に、想い出して貰えれば十分だと思っています。詩吟だけでなく、今回参画した伝統文化の科目を含めて、児童たちへの種まきになれば、大変喜ばしい事だと思いました。



抹茶茶碗を前に作法を教わる児童たち  
茶道に親近感を持たせた

## 生6 - 学 比津 和夫

今回の一連の小学校での茶道の指導では、時間が十分にあったので、児童に茶道具に触れさせたことや、説明が的確に出来て、茶道に親近感を持たせることが出来きました。また実地体験をしたことの意味が大きく、事後の感想文でも、初体験の喜びが伝わってきました。

ただ茶道具の準備が大変で、部員は朝早くから学校に来て道具を並べたり、掛け軸や花を飾り、湯を沸かしたりで授業開始に間に合わせました。また数日前からマイカーで各所から集めた茶道具を預かって頂いたり、終了後も借りた所に返しに行くなどお世話をかけました。今後の検討課題となりました。

## 三味線音楽に親しみを

## 音1 - 学 亀田 俊彦

驚いた事に集まった子どもたちが、三味線に触れたことがない、身近で音も聞いた事がないとの返事でした。こ

のように和楽器の存在が忘れ去られていることに残念な思いをしました。簡単な説明のあと、現在使われている三種類の三味線と、今の三味線の元となったとされる沖縄の蛇皮線の音色を聴き比べてもらいました。初めて耳にする三味線音楽に、親しみを覚える気配が見受けられました。みんなに三味線を手にしてもらい、すぐに簡単な曲でも弾けることは出来ませんが、それぞれが楽しそうに音を出している光景に接して、この度の集いが本当に良かったなと思いました。

最後に三味線の伴奏で「大きな古時計」「ドレミの歌」を歌って楽しい有意義な一時を過ごす事が出来ました。

## いつの日か華道に興味を

## 国11 - 学 福井 恵子

今回は所要があって参加する事が出来ませんでした。受講の児童全員から立派な体験感想文や、お礼のこたばをいただいて感激しています。いくつかを拾ってみると「ユニークな日本文化・歴史があること」「明治時代までほとんど男性だったこと」などが知る事が出来て面白かった。

また「剣山に花を挿すことが難しかった事」「花は挿す角度によって表情が色々違うことを発見した」「いけばなを学校内に飾って嬉しかったこと」など。

私たちも今回の体験を通して、児童の皆さんがいつの日か華道に興味を持って、普段の生活に活かしてほしいと思っています。これからもこうした教室を続けていただきたいと願っています。

## 花谷小学校(須磨区)

今年も11月15,17日の2日間、6年生を対象に伝統文化講座を開きました。昨年のいけばな、大正琴、詩吟に加えて水墨画、茶道の講座で、児童たちは熱心に指導を受けていました。

## 個性豊かな水墨画が

## 遊墨会 - 詫摩 章子

花谷小学校の6年生の皆さんに、この度初めての経験で、水墨画を教えることになりました。大きな「カニ」を画面いっぱい書いてもらいました。みんなはじめての経験で、思い思いの個性豊かな絵を書いていました。水墨画の濃、淡、潤、掠の良さが判ってくれたら幸いです。(次頁に続く)



(前頁から続く)

### 茶の湯の作法を伝授

生6 - 学 比津 和夫

45分間で15人ずつの児童に茶の湯の作法を教えました。最初に「お茶の歴史」の文を読んだあと、薄茶平点前を披露しました。児童を、お茶を点てる組、運ぶ組、飲む組の3組に分けて、茶道部員が実技指導しました。

生まれて初めて抹茶々碗や茶せんを持った児童たちは戸惑った様子でしたが、部員たちの熱心な指導で、すっかり扱いになれ「とても楽しかった」と感想を漏らしていました。しかし45分間でこれだけの指導をするには時間不足で、茶の湯に大切な「間」が保てなかったのは心残りでした。

### なぎさ小学校(中央区)

今年も中央区のなぎさ小学校からの要請で、11月20日(月)戦争体験を聞く会が開かれました。グループわ学習支援グループから5人が、6年生70人に戦争の悲惨さを語って聞かせました。

家屋の強制立ち退きから学童疎開、神戸大空襲と自らの体験談を話したり、フラダンスを披露してハワイの人達が戦争による悲しみを踊りで表現する様子を説明しました。

以下は三校の6年生全児童から届いたお礼の作文です。その一部を紹介します。

### 長坂小学校

私は初めて花をいけました。いけるところがわからず困っている時、講師の方が教えてくださったので、うまくいける事ができました。私の家はたたみの部屋がないけど、家に花をいけたいです。(車谷もゆ)

詩吟の声がすごく大きいのにびっくりしました。高い声が出なくてとまどったけど何とか出せてよかったです。ずっと同じ声を出すすごくいきくるしくてしんどかったです。詩吟をしている人はたいへんやしんどいと思います。(宮内高照)

大正琴は音譜じゃなくて番号なのでちょっとむづかしかったです。けんぱんとげんとを、いっしょに押ししたり、はじいたり、なんだかこんらんしそうになりました。琴の歴史は勉強になりました。(川合里奈)

## 障害児教育の支援活動に参加を

福住小学校の松本容子校長が訴え 国5 文 神林 幹夫

本年度第3回「子どもたちの学習支援活動」登録者の集いが、12月5日シルバーカレッジ学習室で開かれました。今回は研修とグループディスカッションが主な行事でしたが、神戸市立福住小学校校長の松本容子先生の「障害者教育について」と題する講演が我々に多大の示唆を与えてくれました。

そのうちの一つ、神戸市内には所謂ひまわり教室などを除いても通常の教室に特別支援を要する児童が、多くの学校に多数いるといえます。

一方で支援するボランティアは県下大学生の協力を得ても、まだまだ手薄で十分に手が回っていない状況下にあるそうです。グループわでも要請のあった15校のうち現在のところ10校についてしか支援できていません。

新学年には要請は更に増えるものと予想されます。松本先生も強調されていましたが「それぞれ個性に合ったやり方で、これらの子供に関わって上げてほしい。自然体で学校に来て下さることがとても有難いです」わの皆さん特に技能や資格が要るわけではありません。

是非、支援活動に参加しませんか。何時でも本部にご連絡頂けると幸甚です。

### 平成19年度第1回学習支援活動登録者の集い開催のご案内

日 時	;	平成19年4月17日(火)	13:30 ~ 15:30
場 所	;	神戸市立シルバーカレッジ2F 学習室1~2	
主な議題	;	(1)平成19年度の活動の進め方について	
まだ登録されていない方の出席歓迎			



松本校長(左から3人目)を交えて熱心にグループディスカッション

### 花谷小学校

ぼくは絵を描くのが下手で、しかも習字も苦手ではっきりいってやりたくなかった。初めての水墨画は自分なりに上手く書くことができました。またこのような機会があれば楽しみたいです。(八木祐也)

華道を教えていただきありがとうございます。私はあの日から花を見るたび華道のことを忘れられません。花はただいけるのではなく、よく考えていけることがわかりました。(松井桃華)

これまで詩吟というものを聞いたことがなく「おもしろいのかな?」という気持ちでした。でも体験してみてもさすがしくなり、親しみを持つことができました。いい経験が出来ました。もっと皆様と歌いたかったです。(飯田瑞穂)

### なぎさ小学校

今日のお話でぜったいに戦争はしたらダメだと改めて思いました。今のご飯もお腹いっぱい食べられるし戦争の事をもっと知ってほしいと思います。つらい時には今日のことを思い出してがんばります。(吉田裕美)

戦争の話聞いて思ったことがあります。一目は戦争をするとたくさんの人や町がなくなる。二目は戦争が終わっても心の痛みは残っている。三目は二度とこのような事は起こらないでほしい。(内海雄太)

テレビや教科書で戦争のことは知っていましたが、神戸であんな悲惨なことが起きていたことは知りませんでした。生のお話だったので、本当に戦争がいけないという事がすごく伝わりました。(バツティー亜夢斗)



## 環境部会 こうべ環境未来館エコスクール

ドングリ、ケナフから学ぼう地球温暖化 生3 - 環 中島 洋吉



ドングリの実を探して親子たちは あちらへ こちらへ

### 秋の自然を楽しもう

第11回エコスクール「秋の自然体験会～ピオトープにドングリを植えよう～」は昨年11月18日(土)こうべ環境未来館で、親子33名が参加して行われました。

最初に秋の草花の写真をパワーポイントで説明したあと、参加者は6班に分かれて、押部谷町木津の山林まで約2kmほどを30分かけて、途中の農地周りの野草や樹木を観察しながら歩きました。

曇り空で少し肌寒さを感じる天候でしたが、山林ではまだ木になっているドングリを揺さぶって落したり、落ちたものを拾ったり。帰り道、竹藪を観察しながら約1時間30分すごしました。

午後は、家族毎に午前中採取してきたドングリを主な材料として使い、スタッフが準備した補助材料と組み合わせ、自由な発想でいろいろな作品を作りました。

こどもが自分自身で作ったり、家族と合作で作ったり、数々の作品は約1時間で出来上がり、会場の参加者全員に披露しました。

最後にピオトープ周辺に家族毎に穴を掘って肥料を入れ、1年生のドングリの苗木を植えました。苗木の横に自分の名前を書いた杭を立てて、作業を終りました。参加者には毎年自分達の植えた苗木の成長を観察しに来てくれるよう呼びかけました。

参加者の感想は「自然を大切にしなければと思いました」「結構、身近な所に色々な野草があることが判った」など大半の人達が日ごろ知らなかった身近な自然に目を向け、自然を大切に思ってくれたことが判りました。

### ケナフでカード作り

平成18年12月16日(土)10時から15時まで、こうべ環境未来館のエコスクール「地球温暖化防止の学習会～ケナフから学ぼう地球温暖化～」がスタッフを含む47名の参加で実施されました。



ケナフの紙作りで原料をミキサーに入れる子どもたち

ケナフという植物は成長が早く、それだけに二酸化炭素の吸収も多いという観点から、紙すきなどの環境教育題材としてよく活用されています。また、牛乳パックもトイレトーパーなどにリサイクルされるなど、良質のパルプとして活用されています。

これらの材料を使って紙すきを行い、自分だけのオリジナルクリスマスカードを作ることで、植物が地球温暖

化防止に役立っていることや、ごみを減らし資源をリサイクルすることも温暖化防止につながることに気づき、様々な環境問題を考え、また、紙すきの体験を通してものづくりにも興味を持ってもらうことを目的とした企画でした。

最初に12月が地球温暖化防止月間であることや、2040年に北極の氷が溶けて無くなると言われているが、そうならないためにどうしたらよいかを提起した後、映像を使って「ケナフ」がなぜ地球温暖化防止に役立っているか、二酸化炭素が増えると地球はどうなるのかなどのお話を聞きました。

その後、参加者は4つの班ごとに自己紹介をし、スタッフの指導のもと紙すきに挑戦し、皆さんそれぞれのアイデアで模様入りのカードを1人2枚ずつ作成しました。参加者もスタッフも出来立ての濡れたカードをアイロンで乾かす作業に汗を流し、昼からのクリスマスカード作りに備えました。

昼休みの間、子どもも大人も、この冬に水を抜き、新しく水を入れなおす予定のピオトープに残っているメダカや、ヤゴの救出作戦に参加し、生き物の観察など自然に触れる野外活動も楽しみました。

午後からは、アイロンで乾かしたカードに素晴らしい絵や文字を書いて、夫々の「オリジナルクリスマスカード」を作成しました。

完成後は、テーブルごとに作品を紹介した後、OHCを使って「こんな作品が出来

ました。誰々さんに差し上げます」と披露して楽しくエコスクールを終えました。

参加した親子は「はがきを作ったのが楽しかった。これからごみの分別や電気の消し忘れに気をつけます」「初めて紙すきをしましたが大変楽しかったです。牛乳パックだけとはまた違った手触りで素敵でした」と感想を話していました。



# 国際部会

## 国際親子ハイクを楽しむ

国8 - 国 佐伯 義昭

グループ わ 国際部会が(財)長寿社会開発センターの助成を得て、昨年11月18日(土)外国人と日本人親子のハイキングを通じて交流会を開催

を合わせて手を組むヒツキ虫ゲームや、国際部会の会員から提供された品々をジャンケンで勝った者から取っていく勝ち抜きゲーム。最後はチーム全員が一枚の新聞紙の上に立ち、クイズに解答できなければ新聞紙を半分に分けて折って、はみ出ると負けになるゲームで、互いに抱合い、肩車で人間2

階建てなどスキンシップを通じた国際・親子交流に楽しいひと時を過ごしました。

午後2時には修法ヶ原を出発、神戸で最も美しい紅葉道といわれるコースを経て市ヶ原と改修の終わった布引貯水池まで下山した。何とも美しい景色に外国人は感嘆していた。

参加者を代表してマリスト国際学校 Rudy Maharaj 校長から「学校の子供達が今日なぜキャンセルしたかわからないが、私たちは大変楽しい一日を過ごさせてもらったことに感謝申し上げたい」との謝辞を頂いた。皆さんとの別れを惜しむように小雨がポツポツ…。日本人の少女がアメリカの Andrea Tews さんとすっかりうちとけて仲良くなり、このまま別れるのが寂しいと涙を浮かべていたのは印象的でした。



外国人親子を交え、みんな揃って記念撮影

しました。

この日、地下鉄県庁前駅9:30集合、ハイキングのメッカと言われている修法ヶ原・市ヶ原方面へ出発した。最初、参加申込者35人のハイキングを予定していたが、当日キャンセルが多く12名となった。マリスト国際学校から3名の先生、中央区在住の留学生、西区在住の教育システム研究者の外国人計5名に対し、日本人親子は7名、それにわ本部・国際部会18名の交流ハイキングとなりました。

当日は薄曇りで雨の心配もなく、時折陽が射すハイキング日和で、主催者としては先ずひと安心。諏訪山公園で準備体操の後、最初の関門である諏訪山神社の急坂、幼児には少しきつかったようでした。

途中、林間コースから眺められる神戸の海、浮かぶ船、高層ビル等の景観に外国人親子などはワンドラフルと楽しんでた。大師道、狸ヶ池、大龍寺を経て、正午過ぎ修法ヶ原に到着した。

「楽しいランチタイムです」の声に、先発隊の食事班による心のこもった食べ物が提供された。ピュッフエスタイルでオープンサンド、コンスープ、ゆで卵、おにぎり、りんご、バナナ、みかんなど大変なご馳走だった。

食後はゲームを楽しむ。二人が背中

## 季節の草花

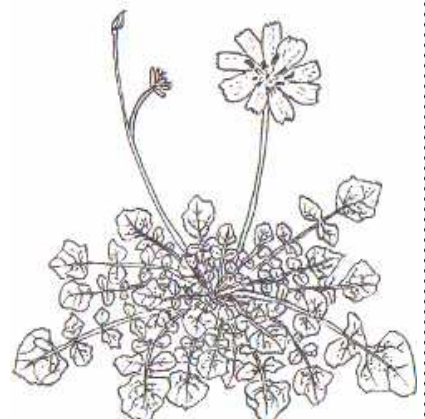
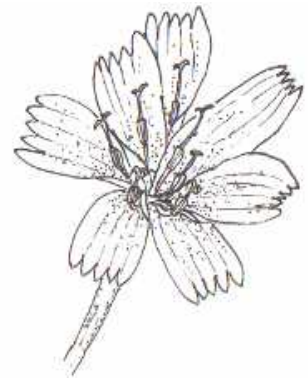
### コオニタビラコ

生8 - 文 久保 知彦

セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ、スズナ(カブ)スズシロ(ダイコン)を春の七草とするのが一般的だが、これには異説がありハコベラを入れずに、タビラコ、ホトケノザとするものもある。すると、このホトケノザは何だろうかとの疑問がでてくる。

このホトケノザだが、シソ科で春に赤紫の花をつけるものがあり、これは食用にはならない。春の七草にでてくるホトケノザは、キク科のコオニタビラコのロゼット葉を指している。牧野富太郎氏がこのコオニタビラコをホトケノザに当てたことから一般的になったらしい。

コオニタビラコは春耕前の水田やあぜ道に生える越年草で、タンポポに似るものの花の咲いたあとに白いわた毛ができない。地面に張り付いたような葉の上に花がついている様子からホトケノザという名前がついたのだろう。タビラコとは「田開く」が訛ったものとか「田平子」だとか、さまざまだ。





# 須磨区会

## 気力と勇気をもった 看護ボランティアに参加して 福6 須 佐々 信義

須磨区友が丘にある神戸大学医学部の看護学専攻の3回生を対象にした「老人アセスメント演習」が昨年夏に行なわれました。私たち須磨区会のメンバー6名が老人役として参加する機会を得た。この活動は須磨区会が6年間続けている奉仕活動です。

担当教授から今回の授業のねらいとして、老人世代の生活体験や交流に乏しい学生に、この体験学習を医療人としての望ましい態度を涵養に役立てるよう指示がありました。



老人アセスメントに参加した看護学専攻の学生さんと須磨区会の会員

過去の実績からこの演習を重要な柱と位置づけています。具体的には、個々のボランティアのありのままの日常生活の様子、現在の心身状態、また老化を自覚する身体的な変化等について、学生たちとの会話を通して感想や意見を率直に伝えてほしいとのことです。対話時間は一人30分と決められていたのですが、私は予定時間をオーバーして、予備時間まで使い切る羽目になりました。

初日は定刻30分前であったが、校舎入り口にはすでに学生たちが待ち構えていて笑顔で出迎えてくれた。私は2日間で5名の学生を担当した。彼らの出身地が長野、京都、奈良と県外からの学生が多いのに驚きました。

多少の違いは見られるものの5名すべてに共通していえる事は言葉使い、態度も礼儀正しく真剣さが伺えた。加えて自分が目指す職業の担うべき使命をしっかりと見据えた言動に

# 兵庫区会

## 兵庫区会も会員相互扶助をスタート

### 早速、引越しのお手伝い第1号も 音2 兵 宮城 智子

明けましておめでとうございます。兵庫区会でも、西区会に引き続いて昨年末から会員相互扶助ネットワークをスタートさせました。本年はグループわにとりましても10周年を迎えるわけですが、同じく兵庫パンジーの会も1期生の先輩が設立されてから早くも10年を迎えます。

カレッジを卒業してから兵庫区に住む者が親睦を深めながら、たまたま大震災を在学中に経験したこともあり、建学の精神である「再び学んで他のために」に丁度はまったとも言える

時期でもあったので、在学中からのボランティアがごく自然に続ける事ができています。

お蔭で会員みんなが仲よく、横の連絡もスムーズになり、ボランティアの要請に協力していただいています。お互いに加齢が進み、今後は「遠い親戚より近い友人」ではないか？との話が出ていました。

ちょうどその頃に前区会長、竹田昭一氏より、グループわでも会員相互扶助を計画しており、各区会でも協力してほしいとの要請があつたとの報告がありました。さっそく66名の会員からアンケートを行い、実施に向けての意見の集約をしました。

紆余曲折を経ながら二度目のアンケートで50名から何らかの支援活動をしてほしいとの回答を得ました。昨年末に漸く、電話・FAX・メールによる「会員相互扶助ネットワーク連絡簿」を作成、会員夫々が自分の能力に応じて出来ることを登録してもらいました。

折りしも、この完成の少し前に引越しをされた会員が居られ、近くの会員に直接に依頼を受けて、引越しのお手伝いをされたという相互扶助第1号が実現しました。それはお互いの親睦がなされた結果だと思えます。

また会員相互扶助については退会された人にも連絡表を配布し、いつでも利用を呼びかけています。先日退会された人からお悩みのお電話があり、弁護士の紹介依頼を受けました。区役所に相談の日を尋ねてみてはと、お話のみ聞いてあげました。

いまは、未だ元気だから外部からの依頼に応じてボランティアができるとしても、何時、助けて！と悲鳴を上げる立場にならないとも限りません。お互い助け合ってゆきたいとの会員各位の気持ちが通じたのではないのでしょうか。せっかく縁があつて、同じ兵庫区に住んで居る者同士がこれを有意義に利用して欲しいと思う次第です。

しばしば接し、感動すら覚えたことを忘れる事はできません。

昨今の医療、看護保険制度の改悪のひどさには、強い怒りと憤りを感じるのですが、今度の演習に参加して、看護の現場には命を託すに十分な若者が育っている姿に触れ、一途の光明を見た思いです。これまで胸のうちにあったモヤモヤした気分を吹っ飛ばしてくれるエネルギーとなり、何よりの成果でありました。

これまでは医療問題にふれる場合、常に患者側に足をおいた価値判断が多く見られました。これからは医療現場での仕組み、環境の変化に注意深く関心を持ち続け、彼等の職場環境を守ることが何より肝要であります。今回の体験で「気力と勇気」を合わせてもらう結果となり喜びを感じています。

最後に関係者の皆様へ、感謝の気持ちをこめて「ありがとう」の言葉を贈ります。





車椅子の老人も銭太鼓の音に合わせて手拍子の大喝采

## 長田区会

### 震災の街に銭太鼓の音 在宅福祉センターは興奮の渦 美8 - 長 松本 治司

いまでも力強い復興のつち音が響く JR 新長田駅の南の在宅福祉センターで、震災記念日を2日後に控えた1月15日銭太鼓の銭の音が「ドンドン」「シャンシャン」と威勢の良いかけ声と共に響き渡った。阪神淡路大震災で瓦礫と化した街並みが残る一角に在宅福祉センタがある。

朝早くから家族の車や施設のバスで利用者が続々と集まり10時頃には満室になる。午後1時ごろ私達は施設を訪れた。法被にねじり鉢巻きの派手な衣装で銭太鼓同好会の皆さんがカーテンの陰から現れるとウワーと言う声と共に皆さんの表情は一変した。「浪花節だよ人生は」の曲に合せ

て踊りが始まった。

銭太鼓の銭の音、床を力強く叩く響き、皆さんは驚いたように椅子から身を乗り出す。2曲目の「花笠音頭」が終わったときにリーダーの小島勝敏さんが「皆さん一緒に踊りましょう」と呼びかける。

遠慮していた皆さんも小島さんの巧みな話術に乗せられて、一人・二人と舞台上がった。そして施設の職員たちも一緒になって、秋田大黒舞を踊った。河内おとこ節の時には全員の合唱となって部屋中が盛り上がった。

小島さんの終わりの挨拶の途中、拍手が鳴りやまず、アンコールで皆さんと一緒に歌い踊った。私の横に座ったおばあちゃんの「楽しかったです」と言う声に胸が詰まった。「私は年女なんです。震災の時も亥の年でした」と話してくれた。

あの日から12年が過ぎた。銭太鼓の皆さん有り難うございました。今後のご活躍をお祈り致します。

## 西区会

### 伊川の大クリーン作戦 生9 - 西 西田 圭一

西区伊川谷地区を流れる伊川のゴミを拾い、川をみんなの手で美しく保ちましょうという活動が、昨年12月3日(日)午前9時から開催されました。地域住民の人々約700名が参加されました。

私たちのグループはシルバーカレッジ生活環境コースの9期生、グループ学習で「ふるさとの川...伊川」の水辺調査をした伊川自然探検隊のメンバーと、西区在住の会員です。在学中より現在まで毎年、このクリーン作戦に参加しています。一昨年より在校生の地域交流会のメンバーにも参加を



伊川の清掃をする探検隊のメンバー呼びかけ、昨年もグループあじさいのメンバー2名の参加を頂きました。

現在、西区会の活動としては報告していませんが、今後は西区会の活動として会員にも参加を呼びかけると共に、在校生の地域交流会の皆様の協力を得て、グループわの地域に密着した活動として、継続していきたいと思っています。

## 垂水区会 福田川のクリーン作戦 生9 - 垂 竹中 任



福田川クリーン作戦の活動メンバーたち この活動は垂水区の主要な川である福田川の良い生態系の確保のため、川沿いの道路の美化活動を目的として、垂水会が呼びかけ平成16年4月から継続している環境ボランティアです。現在登録人員は33名ですが、作業日は常時7~10名の方が参加され、活気のあるグループです。

毎月1回(第2木曜日)で、雨天の場合は次週に作業を行います。作業区間は、東名谷のあじさい公園から川沿い道路(両サイド)を北へ約2Km程の神和台宮前橋付近まで、ゴミ清掃と収集で水環境の保全に努めています。

“継続は力なり”とよく言ったもので、最近は散歩される方から「お陰で気持ちよく散歩することができます」と感謝の言葉を聴くようになりました。川の水質も良くなっているのか、鯉や小魚や鷺などの姿を見ることが出来るようになり自然のやさしさを味わうことができます。これからもこの活動を継続して、川沿い道路の美化と水質保全に努めていきます。

“川沿いの 歩むみちの端  
蠟梅の 花開きみて  
足のとどまる”

### グラウンドゴルフ大会のご案内

- (シルバーカレッジ垂水会と共催)
- 1日時: 3月12日(月)9:00~12:00
- 2場所: 垂水健康公園
- 3会費: 200円
- 4雨天中止: NHK TVAM6; 55の天気予報降水確率30%以上
- 5ステック、ボールは無料貸出し。同封のハガキに出欠を2月10日までにお知らせ下さい。
- 問合せ先 下本 護 TEL753-2433



# 中央区会

## 大忙しの初詣ボランティア

国9 - 中 五味 正昭

新年の恒例行事である車椅子による初詣ボランティアは、ことし同じ日に2カ所の特養からの要請がありました。中央区会だけでは応じきれないので、福祉部会の応援を得て無事、湊川神社の初詣をすませました。

正月3が日の混雑を避けて、1月11日(木)にケアポートの3名と、真愛ホームの5名の8名が、翌12日(金)は真愛ホームの5名に分けて参拝です。3が日の混雑は嘘のように静かで、この日は幸いにして冬としては比較的暖かく、入所者の方々もほっとした様子が伺え、和気あいあいのうちに参拝が



車椅子介助で湊川神社に初詣のケアポート神戸の皆さん

車椅子介助による初詣の要請があったのは、ケアポート神戸から3名、真愛ホームから10名です。出来る限り中央区会で要望に応えようと、ボランティアを募り、10名の方が応じ

た。なかでも中央区会の元田弘忠、岡尾昌子両氏には当日、午前中は真愛ホームで入浴ケアに携わり、午後には初詣のボランテ

ィアと、場所を移動しての活躍ぶりに、深く感謝しています。またボランティアに参加いただいた皆さん方、本当に有難うございました。

# 東灘区会

## 創立90周年記念の

### お祝い会に招かれて 音5 - 東 藤井 潤子

大正7年創立という遊喜幼稚園の「創立90周年記念お祝い会」が昨年12月9日に開催されました。私たち食育ボランティアグループも招かれ、指導者の富永征児さん(園芸7期)ら8名が100名近い来賓の末席を汚しました。

90年の歩みのスライドの中にグループわとして、園児と一緒に活動状況も撮られていました。食育ボランティアもやがて2年になりますが、園児たちの成長振りはすばらしく、当日は可愛い楽器演奏を披露してくれました。住吉中学校の吹奏楽演奏(全国一に輝く)もあり、出席者の皆さまをとっても楽しませてくれました。



遊喜幼稚園の90周年式典での記念撮影

これからも子どもたちと食育ボランティアを通じて関わり、100周年記念の会に招かれるよう頑張れたらいいのにと考えております。先日、大根の収穫に行ったところ、お祝いに持参した籠盛りのお花が、1ヶ月以上も経っているのに少し手入れして、まだ玄関に飾ってあったのにはまたまた感激でした。山本園長先生の自然の生物を大事にするというお心が偲ばれたことでした。

## グループ紹介

### 絵手紙クラブ

国5 - 岡田 京子

絵手紙クラブを立ち上げるきっかけは、平成14年に須磨区のボランティアセンターからグループわの須磨区会代表者に「区内の老健施設で絵手紙のボランティアをしてほしい」との依頼があったのです。

さっそく私に相談があり楽画クラブに所属している女性4名を誘って、クラブを立ち上げて活動をはじめたのです。

最初は60歳から90歳



お年寄りに絵手紙の手解きをするクラブの皆さん

までのお年寄り、ある程度絵を描かれる人を対象に始めたのです。まったく初めての方からは「絵なんか描けな

い」「興味がない」など取りつくことも出来ない状態でした。そこで車椅子や手の不自由な方など色々な介助の中で、描かれるよう教えて差し上げたのでした。

途中、戸惑いもありました。回を重ねるごとにハガキの中の小さな世界ですが、描く心で大きな世界が広がります。个性的で世界に1枚の絵、それはそれは感動が湧いてきます。いま

では出来上がった作品で、笑顔も見られます。それで心が和み、お話もはずんで絵手紙の日が待ち遠しいと喜んでいただいています。最初は1カ

所の施設の活動でしたが、現在は6カ所を訪問するまでに広がりを見せています。

### 「希望のステージ」のご案内

日時 平成19年2月2日(金)  
(開場 18:00) 終演 20:00  
場所 神戸文化ホール・中ホール  
入場無料 (要入場整理券)  
出演団体  
混声合唱団コーロKSC  
神戸市立千鳥が丘小学校合唱部  
親和中学・女子高コーラス部  
兵庫県立神戸高等学校合唱部  
曲目 「神戸エアポート」ほか



## 日本の伝統文化の素晴らしさに感動 国際会議同伴の外国人たちに国際・文化部員が手解き 理事 - 東本 敦子



にわか造りの茶室でお点前を披露する茶道部々員

神戸国際観光コンベンション協会から「国際会議に同伴されるご家族の人たちを日本の伝統文化で歓迎したいので協力願いたい」と、グループわに要請がありました。この国際会議は、昨年11月11日～15日、神戸国際会議場で開かれた第3回国際成長ホルモン・成長因子学術会議です。世界各国からの出席者に同伴された家族をおもてなししようというものです。

同コンベンション協会から日本伝統文化のうち外国人に喜ばれるものとして茶道、いけ花、折り紙をお願いしたいとの申し入れでした。

初日の12日は茶道で、会議室に立札棚、傘で飾りつけて、にわか造りのお茶室に変身させました。通訳を通して、外国の人たちにお点前を体験して頂きました。

二日目は折り紙で、会議室の中央には折り紙で作ったお雛様を、テーブルには鶴や風船、紅葉などがいっぱい飾られていました。折り方を印刷した紙を配って、ツルや風船を折って頂きましたが、見事な出来栄に感心していました。

三日目はいけ花で、バケツに入った色々な切花を、ご婦人たちに選んで頂き、先生たちの指導で幾つものいけ花を生けられていました。

国際部会の通訳の方も先生方の思いをしっかりと伝えて頂き、ご婦人たちからも喜ばれていました。文化部会の先生方の着物姿も素晴らしく、日本のよき伝統をご披露できたと思います。皆さまお疲れ様でした。

三日間の日程を無事に終了、コンベンション協会から「参加者には大変喜んで頂きました。今後、国際会議の際には是非、グループわにお願いしたい」とお褒めの言葉を頂きました。

### お点前体験に喜ぶ外国人

福7 - 文 小原 早春

午前7時からにわか造りのお茶室とお水屋を配置して、お茶会を始めました。通訳の方の力添えで、お点前と半東の話熱心に聞いてくださり、ドアの開いたまま廊下のざわめきが聞こえる中とはいえ、それなりのお茶室の雰囲気をつかんで頂いたと自負しています。外部を遮断したお茶室ならもっとよかったのでは。とにかく余った時間をお点前の体験にまわして喜んで頂きました。着物姿で彩りを添えて、心からのおもてなしを致しました。日本文化の一端を覗いて頂けたのではないのでしょうか。

### 折り紙のツルに満足顔

美1 - 文 伊藤 公子

初めての体験でしたが、通訳の方が付いて下さるとの事でお引き受けしました。当日は京都見物にお出かけの方が多かったとかで、参加された方が少なく万端の準備も拍子抜けでした。

でも参加下さった方には、マンツーマンのご指導が出来て満足頂けたようでした。10歳位のお子さんがツルを折りたいと、きっちりと折り上げて満足そうでした。また折り染め紙で折った風船を大事そうにお持ち帰りになりました。通訳の方の見事な会話に支えられ和やかな講習会でした。

### 生け花文化の紹介を終えて

国11 - 文 福井 恵子

少々荷が重いかなど思いながらも沢山の善意に支えて頂き、私の心に残るひと時を与えられて感謝しており

ます。何が喜ばれるのだろうか、花は何を使うか等かなり迷いました。

やはり五百年もの永い間続いている「和」の精神を見て頂く事にして作品を作りました。デモンストレーションでは自然環境や植物に、人間の生き様を写し現在、過去、未来などの空間ドラマを花で伝えたことが、良かったか悪かったか。体験では日本の感覚の花を選んで楽しめました。通訳の皆さん有難うございました。自分で伝えることができたらいいなー。

### 日本文化講座を通訳して

国7 - 国 相馬 博

この講座の通訳を三日間通訳して担当した。茶道紹介には二年前に通訳をしたことがあるので、特殊な用語を復習して臨んだ。会議室に設けられた椅子に座って行う立礼(りゅうれい)であったが、参加者も多く茶室とは異なる賑やかなものになった。折り紙の紹介では“折る”という単語と作品の鶴、雛人形、兜などの単語以外は通常の言葉での説明が主になった。皆さん非常に熱心で、先生の指導の下、器用に作ることが出来大変喜んでもらった。



思い思いに花を生けるご婦人たち

生け花の紹介も初めての経験であった。花を生けることはどこの国でもおこなわれているが、日本の生け花への関心は高く大勢参加して下さった。夫々用意された花を取って先ず自分で生け、それに先生が手を加えることによって見違えるように綺麗になったので、驚きと感動に目を輝かせていた。特に真・副・体(shin·soe·tai)の基本を学び、国に帰ってやってみようとの声が聞かれた。

以上三つの紹介に用語、挿絵の入った分かり易い英文のパンフレットが用意されていたので説明し易く、和やかな雰囲気の中で皆さん満足をして帰られたことは幸いであった。

**ボランティアのすすめ  
気負わず気軽に出来る事から  
美 3 - 兵 井 内 宇一**

辞書によるとボランティア活動とは「自発的に社会福祉活動を行なうこと」と定義されていますが、私は専ら自分の為に活動しています。

米寿(88歳)を過ぎて体力的にもハイキングや山登りも無理で、ただぼんやりと炬燵の守でテレビばかり見ていると、足腰は弱ってくるし認知症が進んでくるのがわかります。大した蓄えもない年金暮らしの身では金のかかる趣味も旅行もままなりません。

私は兵庫パンジーの会に所属して、毎月の例会に出て各方面からのボランティア要請の中から自分ができる事があれば努めて参加するようにしています。木工グループのほか、週1,2回ボランティア活動をしています。おかげで退屈もせず、適度に運動も出来て現在も大きな病気もせず、呆け防止にもいくらか役立っているかと思っています。

私のボランティアは専ら自分の健康保持のためで、その結果、少しでも社会のお役に立つことが出来、余生を有意義に送れるのではないかと考えています。いままで知らなかった障害者、児との交わりも出来て、晩年の人生に大いにプラスしていると思います。

ボランティアを長く続けるには、あまり気負わず気軽に自分の出来る範囲のボランティア活動に参加される事をお勧めします。

**いじめ問題等の24時間電話相談者を募る**

神戸市教育委員会では児童、生徒たちのいじめ、不登校、非行問題を未然に防止するため、新しくこども家庭センターで、24時間体制の電話相談を行うことになりました。

この相談は365日、1日も休まず相談に応じる事になっています。すでに同センターで「こども虐待・非行問題」の夜間、休日の電話相談で実績のあるグループわに依頼があったものです。委託される業務の内容は、現在の電話相談とほとんど同じ勤務で、平日は17:00から翌朝9:00まで(16時間) 休日は9:00から翌朝9:00まで(24時間)です。

一般相談者から電話が入ると窓口業務として、初期対応のあと、緊急の用件の場合は、担当の臨床心理士に電話を転送する業務です。

グループわでは広く会員から希望者を募りますが、現在の電話相談は約30名が月1回程度の勤務となっています。希望者はグループわ事務局(TEL743-8101番)まで申し込んでください。

**こうべ環境未来館**

**コーディネーター募集**

グループわは、こうべ環境未来館の企画運営の業務を神戸市より委託を受け、平成16年度より会員の皆さんが力を合わせて取り組んでいます。皆さんの活躍は、関係方面の方々から評価をいただけるようになりました。

19年度を迎えるに当たって、清新な人材のコーディネーターを若干名募集します。

応募していただく条件のアウトラインはグループわの会員であること。健康であること。環境問題関係に関心があること。コーディネーターの仕事を第一義的に取り組んでいただけること。協調性があること。一等等です。

締切り2月末。詳しくは、グループわ本部までお問い合わせ下さい。

TEL078-743-8101

**編集後記**

グループわが誕生して、今年で10年を迎えます。筆者は、シルバーカレッジの10周年記念誌を担当した縁からか、このたびグループわの10周年記念誌の編集に携わる事になりました。

この種の記念誌は会社なり、団体の歴史書で、大会社などはそれなりの記録が残されているが、グループわには残念ながらこうした資料は少ない。ことにわがスタートしたのは、阪神大震災直後の事で、会員の皆さんは被災者の救援ボランティアに追われていたときで、写真や資料が少ないのもうなずけます。記念誌にはこうした貴重な体験や写真が必要なのです。

シルバーカレッジの記念誌でも震災の時、しあわせの村が陸上自衛隊の救援物資の中継基地だったので、しあわせの村や神戸市役所広報課に問い合わせたが、1枚の写真もなかった。

陸上自衛隊伊丹駐屯地(中部方面総監部)にお願いすると、その部隊は広島に所在する部隊とのことで、2,3度連絡してやっとの事で、貴重な写真が確保できました。

震災当時、シルバーカレッジの在校生が、しあわせの村に建設された被災者住宅を訪問して、救援物資はもちろん新聞を発行して、被災者を励まされたと聞いています。今回の記念誌でもこうしたボランティアの活動ぶりの手記や写真を掲載したいと思っています。創立当時の会員の皆さん是非、こうした資料の提供とご協力をお願いします。(J.N)

**第2回各区対抗ふれあい**

**グラウンドゴルフ大会開催について**

ことしもグループわの活性化と、地域の交流と会員同士の親睦を深める「第2回ふれあいグラウンドゴルフ大会」を開催します。

昨年の第1回大会では予告期間が短かったので、5区会から13チーム、本部から1チームの参加でした。垂水区会が2月に代表選手選考を兼ねて親睦グラウンドゴルフ会を開いたり、北区会も昨年末に親睦グラウンドゴルフ会を開催するなど盛り上がりを見せています。

第2回大会の開催予定は下記の通りです。

記

**開催日** 平成19年4月10日(1ヶ月前予約で確定出来ない)

**開催場所** しあわせの村球技場(たんぼぼの家の西側)

**競技方法** 現在、ニュースポーツクラブで検討しています。